

かばママの はブラシ



くすのき あきこ
ぶん・楠 章子 え・オカダ ケイコ
監修：岡山大学 岡崎 好秀

「はブラシ、10本ずつくださいな！」
うさぎの ざっか屋さんに、また かばママが やってきまし
た。

「はいはい。いつものやつですね」
うさぎの おじさんは、あきれた顔で、
たなからはブラシを だします。



かば用の はブラシは、とくべつです。
大きな口にあわせて、すごく 大きいのです。
かばママは、その 大きな はブラシを おとな用10本、
それから、こども用10本 かかえて、ドツシドツシと かえって きました。
「いっしゅうかんで 10本ずつだなんて、まったく つかいすぎだよ～」
うさぎの おじさんは、ぼそっと つぶやきました。
でも、かばママに そのこえは、きこえません。



かばママは、むすこの かばたと くらしています。
かばパパは おしごとの つごうで、
とおくの^{まち}町に くらしています。

かばママは、かばたんを りっぱな
かばに そだてるために、
めいっばい がんばっています。
いつもおうちを、きれいに
そうじして ピカピカで、
バランスのとれた、
おいしいごはんをつくり、



こくごの しゅくだいも、
さんすうの しゅくだいも てつだって、
さかあがりの れんしゅうにも、
もちろん つきあいます！



そして、はみがきも、てを ぬきません。
かば^{よう}用 とくべつ はぶらして、たべたら すぐに、ゴシゴシゴシゴシ！
すみから すみまで、ゴシゴシゴシゴシ！

「よーく、みがくのよ。だいじな はが、
むしばに なったら、たいへん だからね！」

かばたと かばママは、ならんで ゴシゴシゴシ！
なので、はブラシが、すぐに すりへって しまいます。

かばママは、かばたんのことを かんがえて、おやつも 手づくり。
あまさひかえめで、けんこうにいい やさいの カップケーキを、
まいにち やきます。

ホウレンソウの ケーキ、ニンジンの ケーキ、
サツマイモの ケーキ、カボチャの ケーキ

……どれも おいしいのですが。
かばたんはね、じつはね、



こりす堂^{どう}の 木^きの 実^み たっぷりの
チョコレートが、だいすきなんです。

うんと あまーくて、クルミや
アーモンドや ヘーゼルナッツが
たっぷり はいった チョコレート。

ママには ないしょでね、
おこづかいを ためては 買い^かいにいって、
こっそり たべて いるんです。
こりす堂^{どう}の チョコレートは、
パパが おしえてくれました。

ママに しかられて ないっていると、
「パパと かばたんの ひみつだぞ」って、
パパは このチョコレートをよくかっ
てくれました。



よる。

かばママは、きょうも おいしい ごはんを、テーブルに ならべます。
「おさかなの フライよ。ほねが つよくなるから、
ちゃんと よくかんで、丸ごと たべるのよ。サラダも のこさずにね！」

「はい」



のどが かわいていた かばたんは、
まず つめたい水みずを、のみました。
そうしたら、はに つめたい水みずが しみました。
「いたいっ！」

おもわず かばたんは、さけんでしまいました。
「ど、ど、ど、どうしたの！！！！！」
かばママは、ものすごく あわてました。

「はが いたいよー」



かばたんが いうと、かばママは、かばたんの くち なか 口の中を のぞきこみました。
しろ 白くて、きれいなは。むしばは、いっほん 一本も み 見あたりません。
かばたんは、ドキッと しました。
(もしかしたら、こりす堂の どう チョコレートのせいかも……)
ママに ないしょで たべたから、ばちが あたったのかも。

「ど、ど、ど、どうでしょう!!!!!!」
かばママは、いそいで たぬきの はいしゃさんに、かばたんを
つれてきました。
ドンドンドンッ! ドンドンドンッ!
「せんせい、おねがいしますっ。むすこが、たいへんなんです!」
よるだというのに、かばママは、
もう しまっている はいしゃさんの ドアを たたきつづけました。



「おやおや、どうしましたか?」
たぬきの はいしゃさんは、ちょっと めいわくそうです。
でも、ちゃんと かばたんの 口のなかを、みてくれました。
そして、こう せつめいしました。

「こりゃ、むしば じゃなくて、ちかくかびん じゃ。
はも はぐきも すりへって、しんけいが できて しまっているんじゃよ。
それで、つめたい水が しみるんじゃ」

「な、な、な、なんですって!!!!!!」
かばママは、びっくり。
そういえば、かばママも、このごろ つめたいものが、
しみるきが していました。どうして そんなことにー。

「ずばり、みがきすぎじゃな！」

たぬきの せんせいが、いいました。

かばママは、しんじられません。

いっしょうけんめい はを みがいていたことが、
まちがいだったなんて。



すっかり おちこんだ かばママは、
なきながら、はいしゃさんを でした。

「ママ、なかないで」

かばたんは、ママを はげますつもりで、こりす堂^{どう}の チョコレート
を ないしょで たべていたことを、はなしました。

「だから、いたくなかったのは、はみがきの せいじゃなくて、
チョコレートの せいかもしれないんだ。
ママの せいじゃなくて、ぼくの せいなんだ」



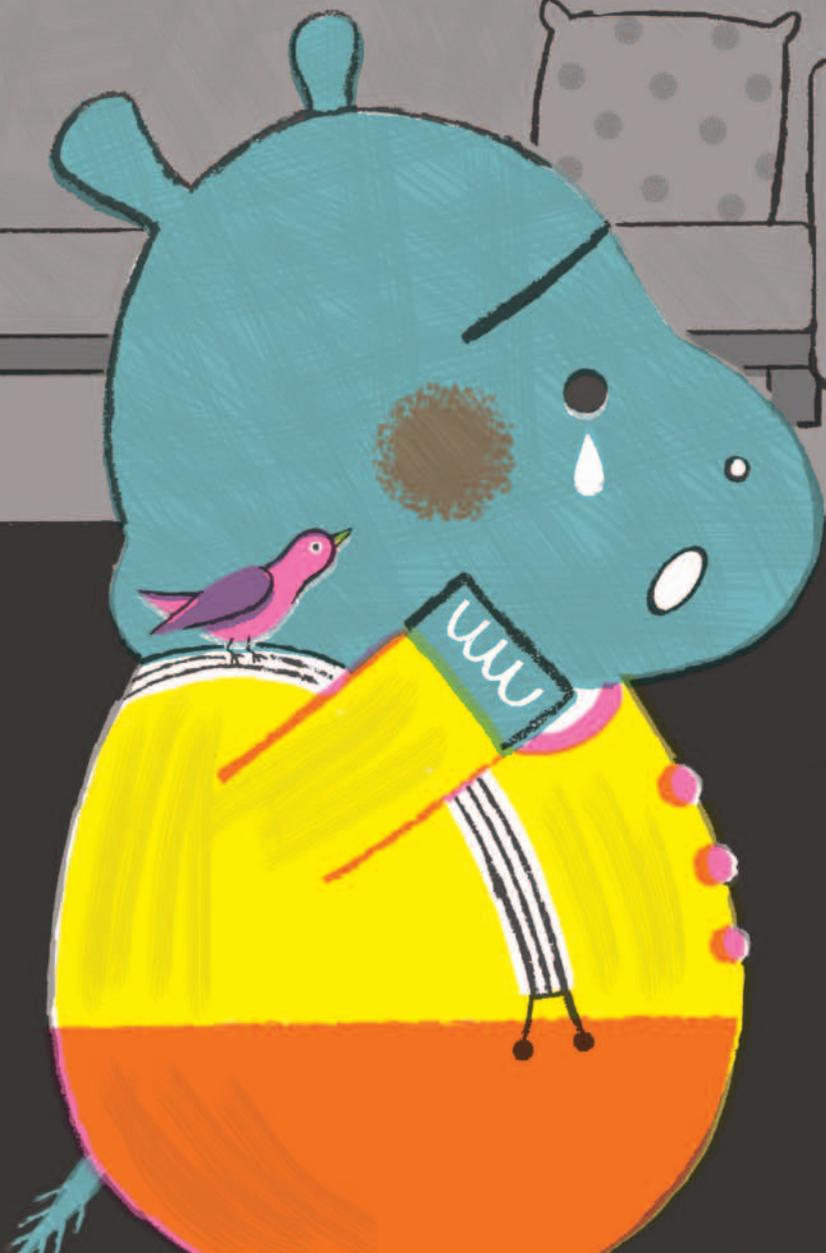
「な、な、な、なんですって！！！！！」

かばママは、さらに おちこんで、たおれてしまいました。
かばたんが、ないしょで そんなことを していたなんて。

「ママ、ごめんなさいっ」

かばたんは あやまりましたが、かばママは ^{くち}口を きいてくれません。

いつも げんきいっぱい、
たいようみたいに あかるい ママが ないては、
おうちの なかは、くらくて たまりません。



(どうしよう……)
かばたんも、なきたくなってきました。



そこへ、げんかんの ドアが
ガチャンツ とあいて、
「ただいまー」
と、こえが しました。

「まさか……パパ？」

かばたんは、げんかんに はして きました。
おやすみが とれたので、パパは きゅうに かえってきて くれたので
す。ママと かばたんを おどろかせようと、れんらくも いれずに。

「どうした、なんか くらいぞ？」

パパは、すぐにおかしな ふんいきに、きが つきました。

「あのね、パパ……」

かばたんは、はみがきと ちかくかびんの ことを、はなしました。
すると パパは、やさしく こういいました。
「がんばってくれて、ありがとう ママ。だれだって、
まちがうことは あるさ。まちがっていたんなら、
ただしい やりかたを きいて、あしたから なおせば いいだけだよ」

「パパ！！！！！」

かばママは、かばパパに だきつききました。

「よかったあ」

それを見て、かばたんは ほっと あんしんしました。





つぎのひ。

かばたと かばママと かばパパは、かば用の 大きな はブラシをもって、
たぬきのはいしゃさんの ところに、いきました。

ただしい はの みがきかたを、おしえてもらう ためです。

「よろしい。しっかり おぼえてくださいよ」



たぬきの せんせいは、たぬき用の はブラシをもって、みがきかたを、
ていねいに おしえてくれました。

食べたらずぐに ではなく、すこし じかんを おいてから、みがくこと。

あまり ちからをいれて、はブラシで、はを ゴシゴシ みがかないこと。

はぐきは、とくに やさしく マッサージするように、ブラシを あてること。



はいしゃさんからの かえり、パパが こりす堂^{どう}に、
よりみち しよう といいました。

ママは いい顔^{かお}を しませんでしたが、
パパが「いいから、いいから」と、てを ひっぱります。

こりす堂^{どう}の まえの ベンチに すわって、
かばたと かばママと かばパパは、
木の実^きたつぷりの チョコレートを ほおばりました。
「とっても おいしいのね。たまには、いいわ。
でも、おうちに かえったら、きちんと はみがきよ！」

かばママが そういうのを きいて、かばパパは かばたんに、
パチッと ウィンクしました。

おわり

